国立市におけるジェンダー平等推進施策について

「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」

● 平成29(2017)年12月の国立市議会で条例可決
(全会一致)
⇒平成30(2018)年4月1日施行



●条例の名称
・「女性」をあえて先に明記
➡ 名称を通じて固定的な意識を解消したい

・「多様な性」の文言を名称に明記
➡ 全国的にも少なかった

条例の特徴１

①性的指向と性自認について定義[第2条]

性別について、従来の女性と男性の二分でなく、好きになる相手の性別（性的指向）や自分の性に対する自認（性自認）について定義。

②性的指向と性自認等の公表の自由は個人の権利[第3条]

性的指向、性自認を公表するかしないか(カミングアウト)の選択は個人の権利。→カミングアウトしない権利の保障

性的指向（Sexual Orientation）どんな性別の人を恋愛や性的関心の対象とするか
性自認（Gender Identity）自分をどのような性別と認識するか、どの性別に帰属するか

条例の特徴２

③性的指向と性自認等に関して、本人の意に反して公にしてはならない[第8条]

性的指向、性自認等の公表について、本人に無理やり公表させたり、止めたりしてはならない。また、個人が知り得た性的指向、性自認の情報を　第三者が本人の意に反して勝手に公表（アウティング）することを禁止。

④パートナーシップに係る証明の交付を希望する者は届出可能[第10条]

⑤条例の推進拠点として「くにたち男女平等参画ステーション」を設置[第17条]

一橋大学アウティング事件

2015年6月、ロースクールに通うAから告白されたBが同級生でつくるLINEグループにAがゲイであることをアウティング。

Aはアウティング後にハラスメント相談室や教授に相談していた。
体調を崩すようになり、2015年8月に大学内の建物から転落死。

2016年、遺族は大学側とBを相手取り損害賠償を求めて訴訟。
2018年、遺族とBとの間に和解成立。

東京高裁は、2020年11月25日遺族側の請求を棄却。大学側の安全配慮義務違反は認められないとの結果。
しかし、「アウティングは許されない行為」であると認められ、その危険性や被害の重大さが知られることとなった。

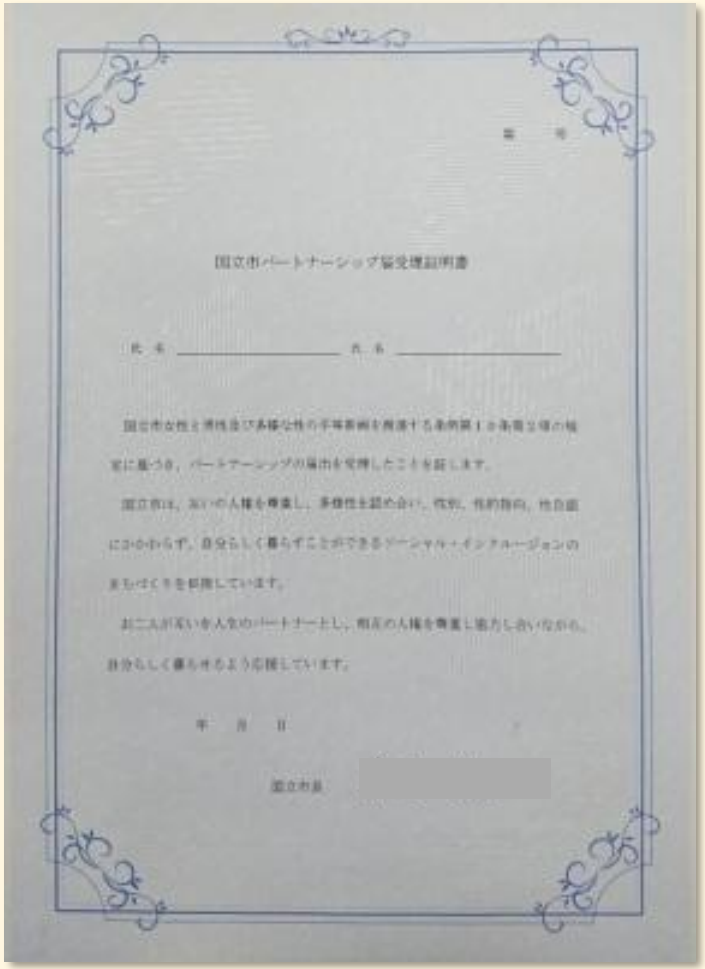
「くにたちパートナーシップ制度」　国立市の特徴

●条例で規定　　届出数：37組　（R8.4.1時点）

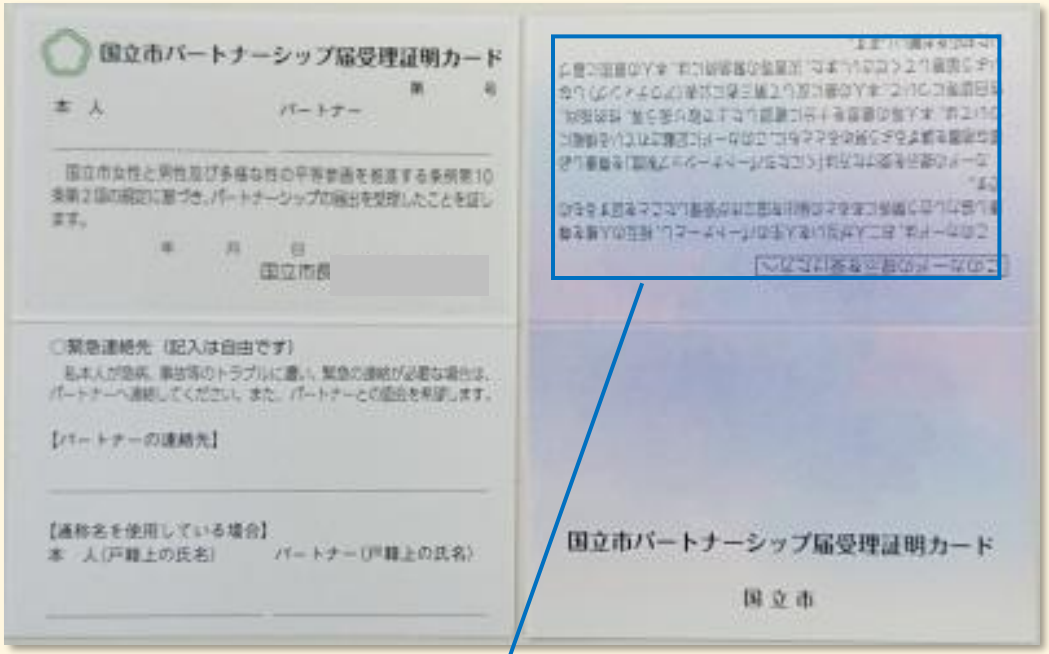
●国立市が考えるパートナーシップの定義
「互いを人生のパートナーとし、相互の人権を尊重し協力し合うことを約した、継続的かつ対等な２者間の関係」

●制度の対象　　セクシュアルマイノリティ・事実婚
⇒同性・異性問わない制度
⇒条例で事実婚も含んでいる自治体は全国初
⇒在勤・在学者も対象としている（全国初）

●カミングアウトをしている方ばかりではない事に留意。
アウティングを起こさないための周知や対策を意識。



＜受理証明書(Ａ４)＞



＜受理証明書カード(名刺サイズ)＞

【このカードの提示を受けた方へ】
このカードに記載されている情報については
本人等の意思を十分に確認した上で取り扱う等、
アウティングにご留意ください。

市職員の休暇制度の見直し

＜パートナーシップ制度創設によって、市の制度も見直した＞

・法律婚だけでなく、セクシュアルマイノリティ、事実婚のパートナーに以下の休暇制度等が適用

●休暇制度

・結婚休暇　・忌引き　・子どもの看護　・出産支援　・育児参加

・介護時間　・短期の介護休暇　・介護休暇　・育児時間

●手当

・扶養手当　・退職手当

くにたち男女平等参画ステーション パラソル

・国立市のジェンダー平等の推進拠点。平成30年5月開設
・設置：国立市　運営：民間委託（株シーズプレイス）
・ジェンダー平等に関する相談、イベント、情報誌発行

市 長 室　　条例、計画の運用、研修
パラソル　　啓発事業、相談事業、情報発信







SOGIに関する専門相談窓口

2018年(平成30年)「SOGI相談」を実施（パラソル）

・性的指向、性自認は「誰にでも関係すること」

として名称をSOGI相談（「LGBT相談」としなかった）

・対象は、当事者、家族、友人、教員など。

・カミングアウトを受けて悩んでいる方も対象。

・専門の相談員が、電話や面談で相談支援を実施。

・月２回（火曜・日曜）１回５０分間　年間４８枠

・「性自認」「家族との関係」についての相談が多い

性的志向について

・**レズビアン（L）**：女性の同性愛者

・**ゲイ（G）**：男性の同性愛者

・**バイセクシュアル（B）**：両性愛者

性自認について

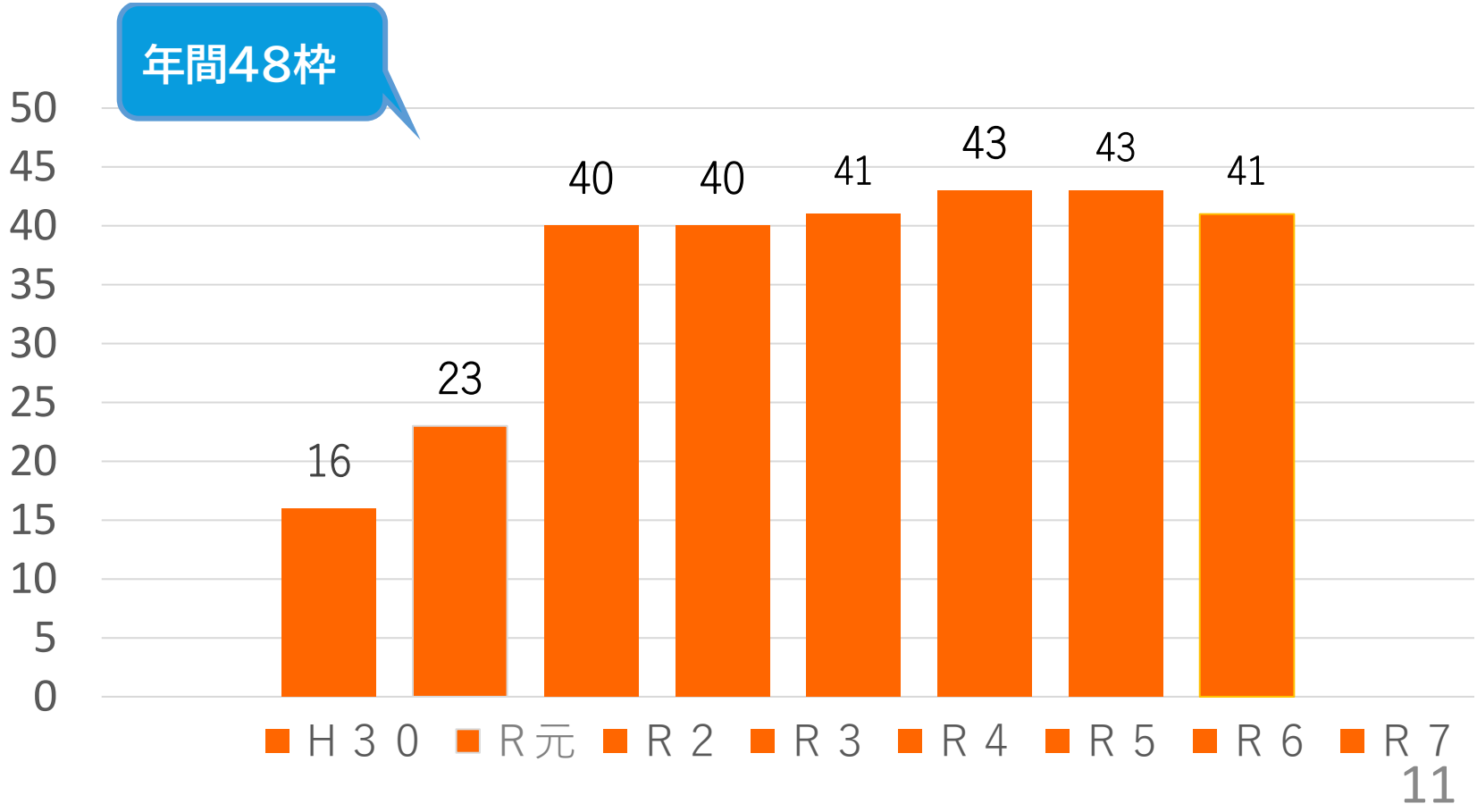
・**トランスジェンダー（T）**：

出生時の性別と性自認が一致しない

・**クエスチョニング（Q）**：

性的志向・性自認がはっきしていない、意図的に決めていない

SOGI相談件数


年間48枠
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
16
23
40
40
41
43
43
41
H３０
R元
R２
R３
R４
R５
R６
R７


くにたち
レインボー月間
くにたちレインボー月間
2025
同じトランスジェンダーでも、


くにたちレインボー月間
2025
「くにたちレインボー月間」
DE&I推進する企業
「DEI」「多様性」ってどうとらえたら良い？
イベント紹介

その他のジェンダー平等推進の取り組み

LGBTQに関する国立市の取組

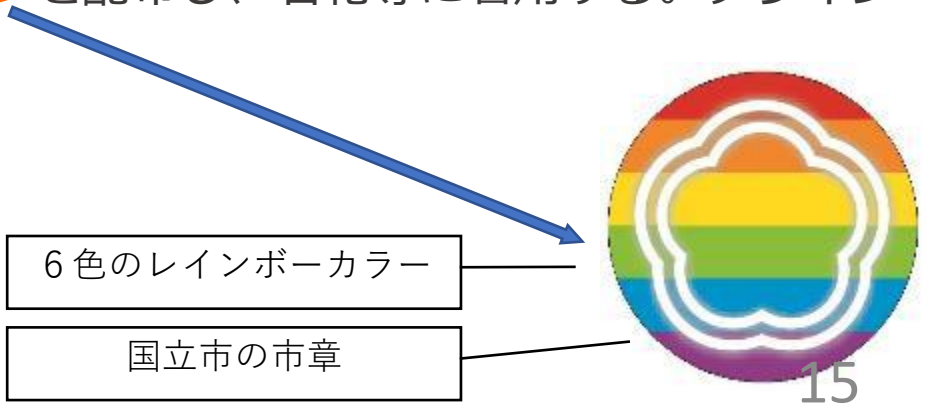
●SOGI研修（R4年度まではLGBT研修）

多様性についての意識が優れた職員育成を目指し、平成26年度より毎年実施。
⇒人権の視点

LGBT支援団体等の講師により、基礎知識の講義・グループワークを行い、当事者の気持ちや受け手の気持ちを体験。（職員・市議会議員・公立小中学校の教員が対象）

研修受講者に市オリジナルLGBTバッジを配布し、名札等に着用する。デザインはLGBT当事者と検討。

【講　師】
原　ミナ汰さん　　南　和行さん
松岡　宗嗣さん　　神谷　悠一さん
遠藤　まめたさん



LGBTQに関する国立市の取組④

「LGBTQガイドライン」

国立市役所が職場として
LGBTQ、SOGIに理解を
すための職員の行動指針
（2021.３月完成）

市内の学校や企業にも
広げている。



「PRIDE指標」

2016年に、日本初の職場におけるLGBTQ＋等のセクシュアル・マイノリティに関する取り組みの評価指標として策定

主催　一般社団法人work with Pride

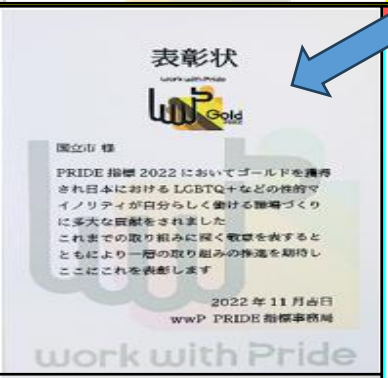
後援　厚生労働省　経済産業省　東京都
(一社)経団連　他

work with Pride

Gold 2022

ゴールド受賞

国立市（自治体全国初）

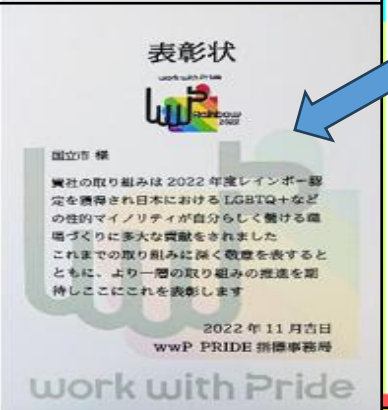

表彰状

国立市 様

PRIDE 指標 2022 においてゴールドを獲得
され日本における LGBTQ+などの性的マ
イノリティが自分らしく働ける職場づくり
に多大な貢献をされました
これまでの取り組みに深く敬意を表すると
ともにより一層の取り組みの推進を期待し
ここにこれを表彰します

2022 年 11 月吉日
wwP PRIDE 指標事務局

work with Pride


表彰状

国立市 様

貴社の取り組みは 2022 年度レインボー認
定を獲得され日本における LGBTQ+など
の性的マイノリティが自分らしく働ける職
場づくりに多大な貢献をされました
これまでの取り組みに深く敬意を表すると
ともに、より一層の取り組みの推進を期
待しここにこれを表彰します

2022 年 11 月吉日
wwP PRIDE 指標事務局

work with Pride

work with Pride

Rainbow 2022

レインボー認定

「GOLD」を受賞していること

国のLGBTQ＋関連の法整備に賛同表明していること

婚姻の平等の法整備に関して市長が賛同表明

コレクティブ・インパクト型の取組を推進していること

多摩９市連携で若年セクシュアルマイノリティの居場所事業を実施

性別の取得について

全庁的に書類上の性別欄の見直し

法的に義務付けられたものや事務の性質上必要であるものを除き、
性別欄を廃止した。

・性別欄が必要な場合は可能な限り自由記載方式とする

【例１】　性別（　　）

【例２】　①女性　②男性　③その他（　　）　④無回答

性別の取得について

■統計や割合を出す場合の性別の取得を明確化した。

〇管理職における女性の割合
〇附属機関（審議会）の性別比率

■本人から性別情報の取得を原則としている。
（担当者の判断で振り分けない）

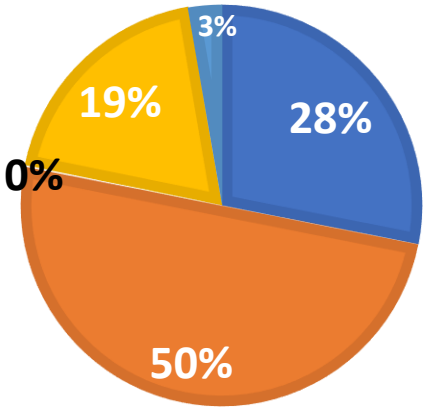
国立市民の認知度

「LGBT」あるいは「SOGI」という言葉を知っていますか？）

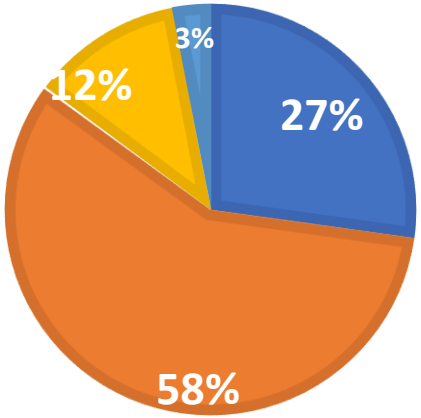
■両方知っている　■「LGBT」のみ知っている

■「SOGI」のみ知っている　■両方とも知らない　■無回答

令和元年度調査

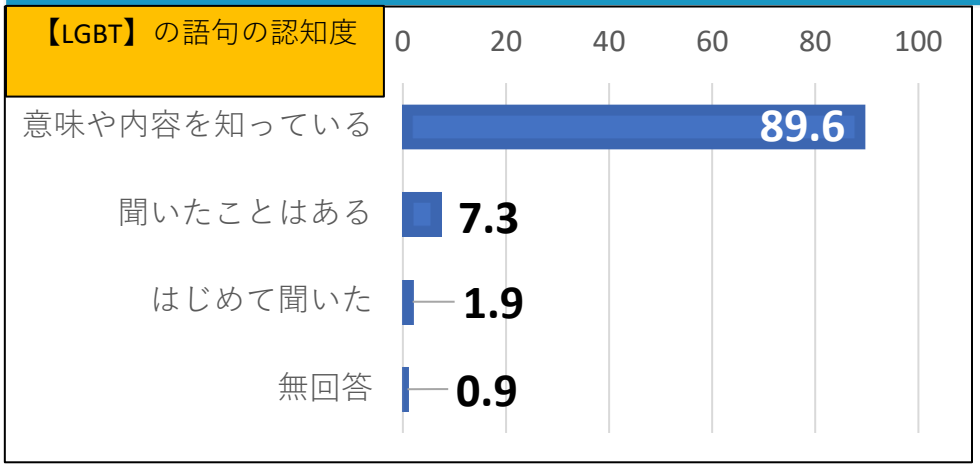


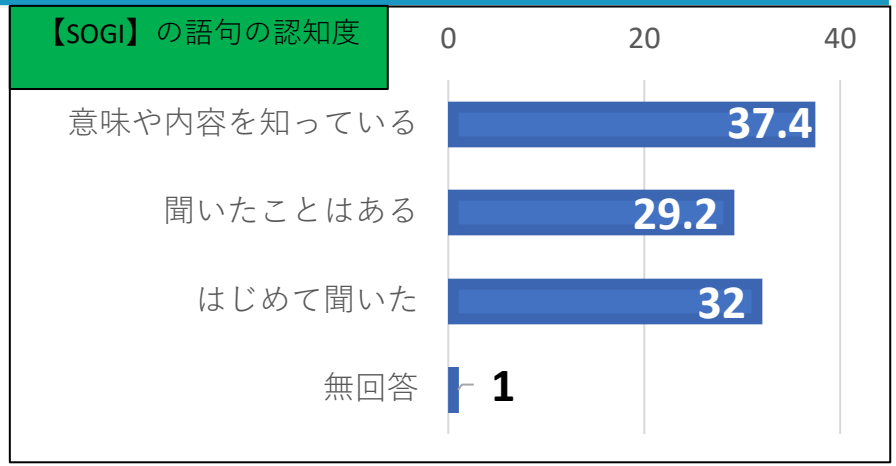
令和６年度調査

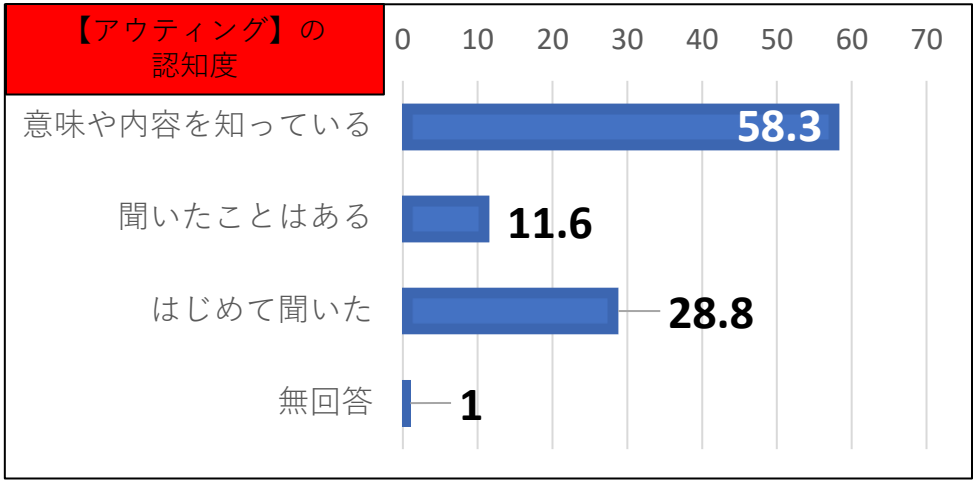


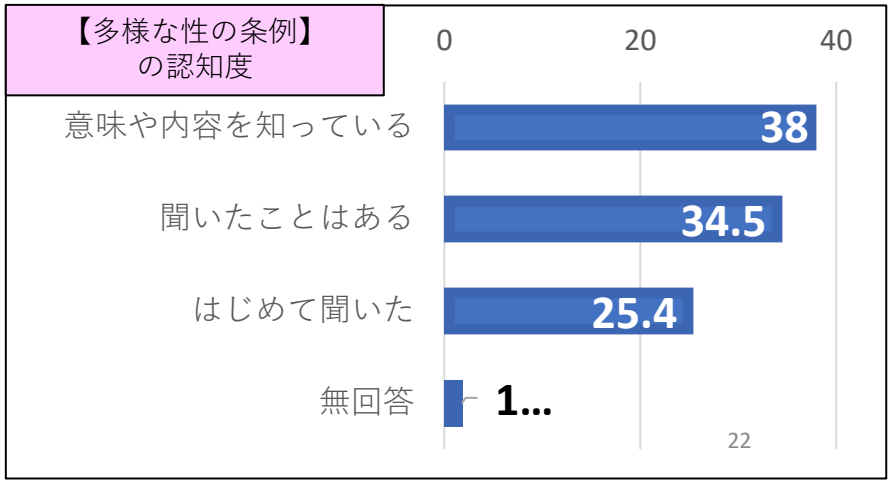
「LGBT」については9割近くが知ってる　一方で「SOGI」の認識は課題

国立市職員の認知度（令和５年度調査）









自治体連携

若年層セクシュアル・マイノリティ支援事業

- 10代から23歳以下のユース世代の当事者または当事者かもしれないユースの居場所事業「にじーず多摩」
- 毎月１回連携自治体の公共施設で開催
- 令和４年度からスタート
- 清瀬・国立・小金井・小平・国分寺・多摩市・東村山・町田･武蔵村山（府中・日野）
- 一般社団法人にじーずとの連携事業
- 2023･2024はレインボープライド出展





産官学連携

【アライウィークくにたち】

■毎年１２月をアライウィークに位置付け

■Ｒ６年度は、企業、支援団体、大学、自治体との協働事業を実施

・ファミリーマート

・認定NPO法人ReBit

・一橋大学

・国立市（市長室・パラソル）

事業メニュー

〇一橋大学での講演会（講師：ReBit ）

〇座談会(パラソル)

「ふつうの正体」

「アライへの一歩(一橋大学)」

「Ｑたちと語るジェンダー」

〇ファミマこども食堂

（ 市内の店舗での絵本の読み聞かせ：ReBit ）